

| | | | | | |
|---|-----------|------------------|--|--------|--------------|
| 授業のタイトル（科目名） | | 授業の種類 | | 授業担当者 | 当該科目に関する実務経験 |
| こどもと健康 | | （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ） | | 柳田 真理子 | 保育士 |
| 授業の回数 | 時間数（単位数） | 幼稚園教諭専攻科 | | 必修・選択 | |
| 12回 | 24時間（2単位） | 前期 | | 必修 | |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <p>・本科目では、領域「健康」の指導に関する、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項に関する知識を身に付ける。理解する事項については以下①～⑥とする。</p> <p>①乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味</p> <p>②乳幼児期の体の諸機能や発達と生活習慣の形成</p> <p>③安全な生活と怪我や病気の予防</p> <p>④乳幼児期の運動発達特徴と意義</p> <p>・到達目標</p> <p>①乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。</p> <p>②健康の定義と乳幼児期の健康の定義が説明できる。</p> <p>③乳幼児期の体の発達の特徴が説明できる。</p> <p>④乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義が説明できる</p> <p>⑤乳幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。</p> <p>⑥乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解できる。</p> <p>⑦危険に関してのリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。</p> <p>⑧乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。</p> <p>⑨乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。</p> <p>⑩日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮等の身体活動の在り方を説明できる。</p> | | | | | |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下3法と表記）の科目内容の理解し、3法共通の領域「健康」のねらいと内容を理解する</p> <p>2・乳幼児の具体的な生活習慣（睡眠・食事・排泄・着脱衣・生活など）を調べ、理解する</p> <p>3・乳幼児の発育発達について調べ、今日的には、どのような課題があるのかまとめる。</p> <p>4・年齢階級別死因（0歳・1～4歳・5～9歳）を調べ整理し、事故の実態と原因及び、保育現場における安全管理・安全教育について考察する</p> <p>5・感染症の予防について、感染経路とその対策について調べ理解する</p> <p>6・乳幼児期の成長にとって大切であると思う自然体験について学ぶ</p> <p>7・3歳未満児の運動遊びについて調べ整理する。</p> <p>8・3歳以上児の運動遊びについて調べ整理する。</p> <p>9・乳幼児の健康課題（乳幼児対象）をグループワークを通して考察・検討。</p> <p>10・乳幼児の健康課題（保護者・地域社会対象）をグループワークを通して考察、検討。</p> <p>11・これまでの学びをまとめ、ノートに「乳幼児の健康」レポートを作成</p> <p>12・提示される期末課題①～⑥について、レポートを作成</p> | | | | | |

[授業テキスト]

- ・ 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・ 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会）

[参考文献]

- ・ 健やかな子どもの心と体を育む運動遊び（建帛社）

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。